

国立情報学研究所

第81回 大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム

2024年10月3日（木） 10:35-10:55

AIの言語生成と人間の言語使用 の違いを重視するAI活用： 大学英語ライティング授業の教育的考察

京都大学・国際高等教育院

柳瀬陽介

<https://yanase-yosuke.blogspot.com/>

https://www.i-arcc.k.kyoto-u.ac.jp/english_jp

自己紹介

- 広島大学教育学部・教育学研究科出身
- 哲学の枠組みを使って教育実践を分析
- 2019年から京都大学・国際高等教育院で教養・共通教育としての英語を教え始める（英語ライティング中心）
 - 英語ユーザーインタビューで現場のニーズを知る
 - https://www.i-arcc.k.kyoto-u.ac.jp/english/interviews_jp
- 2020年から英語ライティング授業でDeepLを活用
- 2023年からChatGPTを活用
- 昨年のシンポに登壇

第70回

大学英語教育におけるChatGPT活用型授業実践：英語教師が認識する生成系AI活用の可能性と限界

柳瀬 陽介 京都大学国際高等教育院 教授

講演概要

ツール・環境

本発表は、発表者が大学英語教師として認識する生成系AIの可能性と限界を示した後、発表者作成のChatGPTプロンプトを使った授業実践を紹介する。AIを使った語彙指導では、学生はAIとの対話からこれまでなかなか学べなかったニュアンスや文体感覚について学ぶ。学術英語ライティングでも、学生はこれまでとは比較にならないほどの豊富な添削と改訂を得て、自らの「声」（4自分で納得できる英語の語彙と文体）を見つける。AI時代の英語力は、生身の英語力とサイボーグ的英語力の統合となるだろう。これにより既存の英語教育体制は再編成を迫られる。再編成を妨げるのは技術的問題よりも、政治的・組織的問題だろう。

講演映像



講演資料

講演資料ダウンロード (PDF)

<https://edx.nii.ac.jp/lecture/20231013-05>

コンピュータ科学者と教育実践者の違い

Pinned
OpenAI @OpenAI · Sep 25
Advanced Voice is rolling out to all Plus and Team users in the ChatGPT app over the course of the week.

While you've been patiently waiting, we've added Custom Instructions, Memory, five new voices, and improved accents.

It can also say "Sorry I'm late" in over 50 languages.



867 3.1K 11K 4.1M

- 最新AIでは何ができるかという**技術中心の問い**よりも、
- 技術が**安定的に利用**できることを望む。
- さらに、学習者の人間的発達のために**AIで何をすべき**（すべきでないか）かという**人間中心の問い**の方が重要。

本日の発表要旨

大学英語教師(ライティング中心)が、
この2年間でどのように、
AI (ChatGPT) の教育的利用についての
考えを深めてきたかを説明。

本日の構成

1. ChatGPT活用1年目：限定的利用を積極的に促進
2. ChatGPT活用2年目：AIの言語生成と人間の言語使用の区別
3. 今後のAI活用型英語ライティング教育：人間重視と学習の高次化へ

1

ChatGPT活用1年目： 限定的利用を積極的に促進

- 1.1 実践：語法添削と文体改訂、対話的語彙学習
- 1.2 考察：DDC、陰陽図、理解力と表現力の連動

1.1 1年目の実践

- ChatGPTを人工「**知能**」としてよりも、大規模言語モデル（≡**文字列予測生成装置**）として信頼

1 語法添削と文体改善のフィードバック提示

- ChatGPTが、学生が書いた英文に対して、語法添削と**2種類**の文体改訂を提示。
- 学生は、**複数の英文を比較**して学んだことをレポートに書き、自分の文章を「**自分の声**」として改訂する。
 - 実践報告は『[京都大学国際高等教育院紀要](#)』で2025年4月に公表予定

2 対話的学術語彙学習

- ChatGPTは、学生が指定した語に対する基本情報を英語で提示（定義・連語・類義語）
- 学生は、その情報を基に例文を作成。
- ChatGPTは、**学生例文を改訂し解説**を加える。
- 学生はそこから**ChatGPTと（キーボード上で）対話**する。
 - 実践報告はKELESジャーナルで公表 (https://doi.org/10.18989/keles.9.0_45)

1.2 1年目の考察

統合的能力

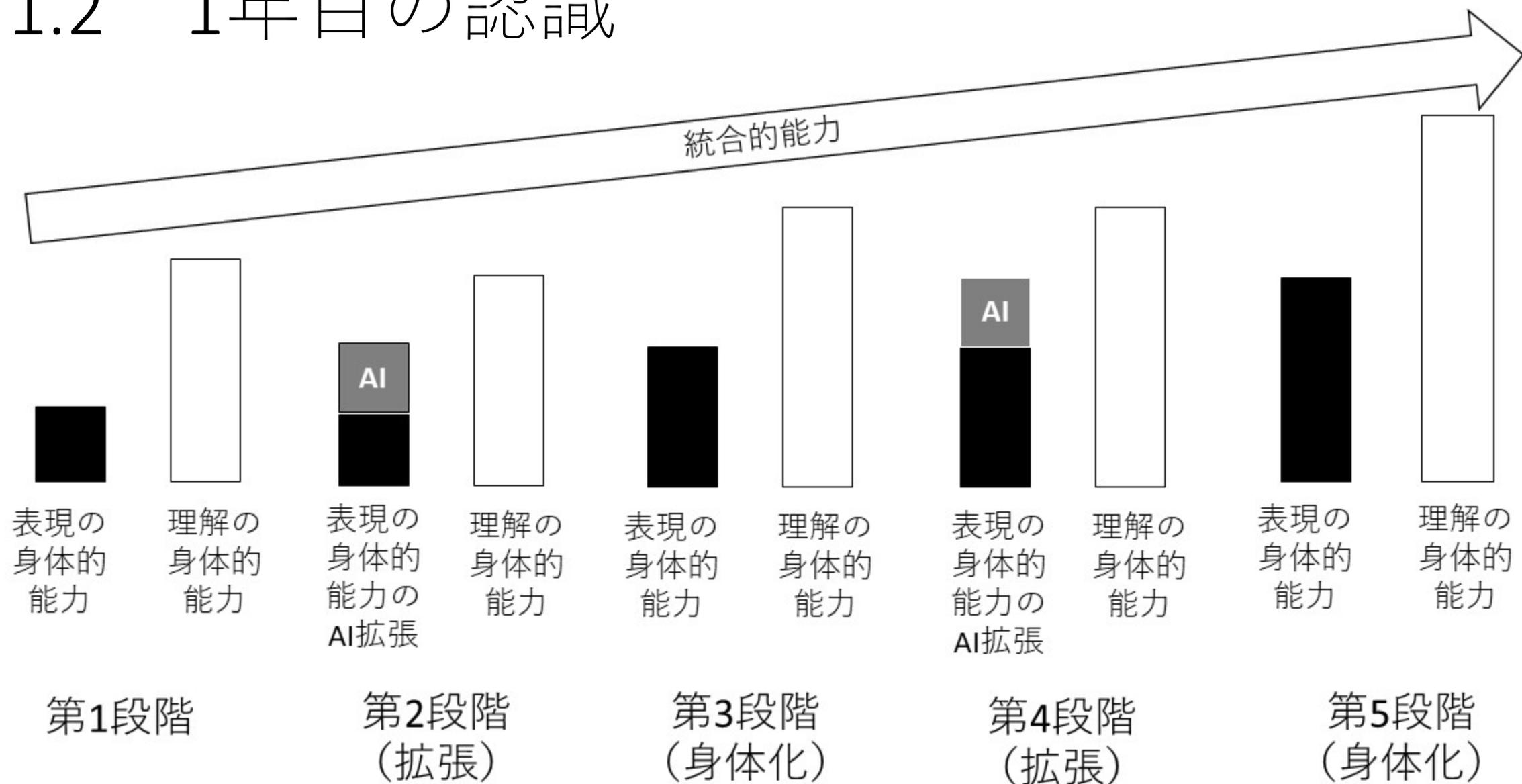


柳瀬陽介 (2023c) . 「AI時代における第2言語としての英語力—大規模言語モデルの可能性と限界からの考察」

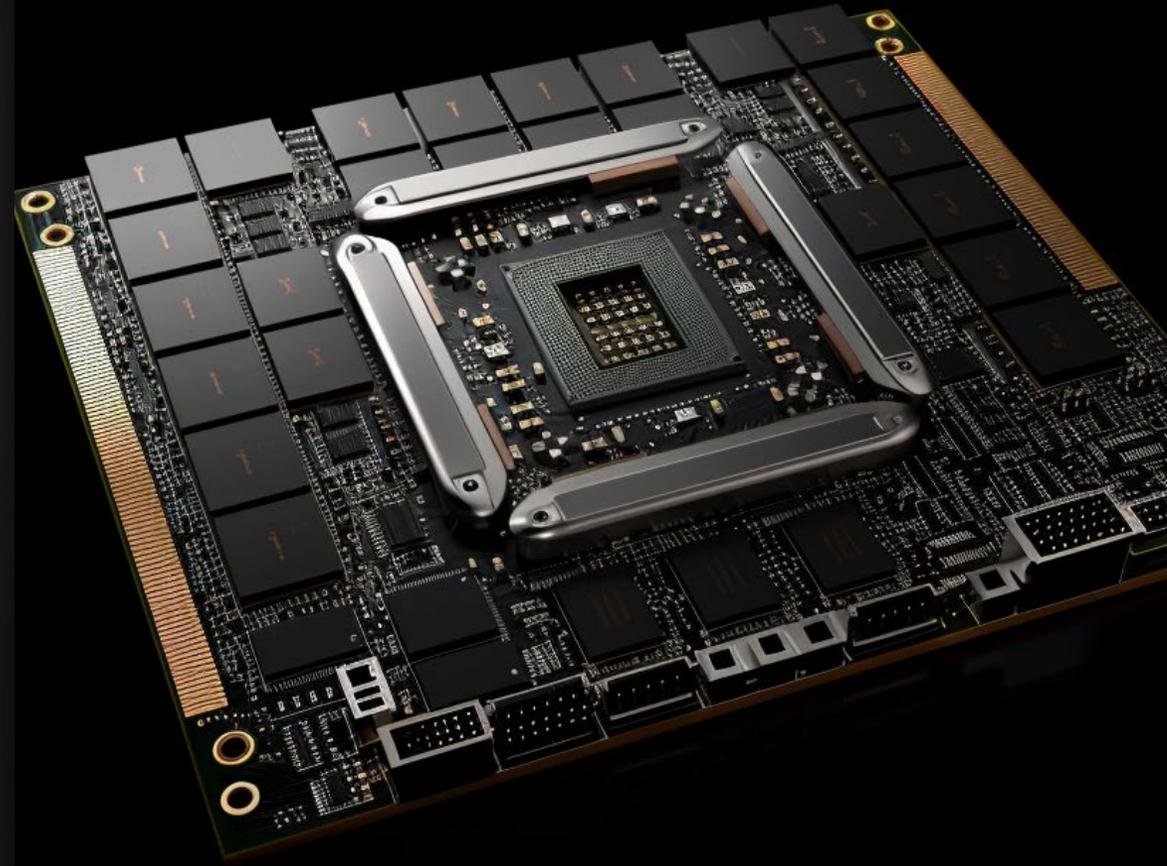
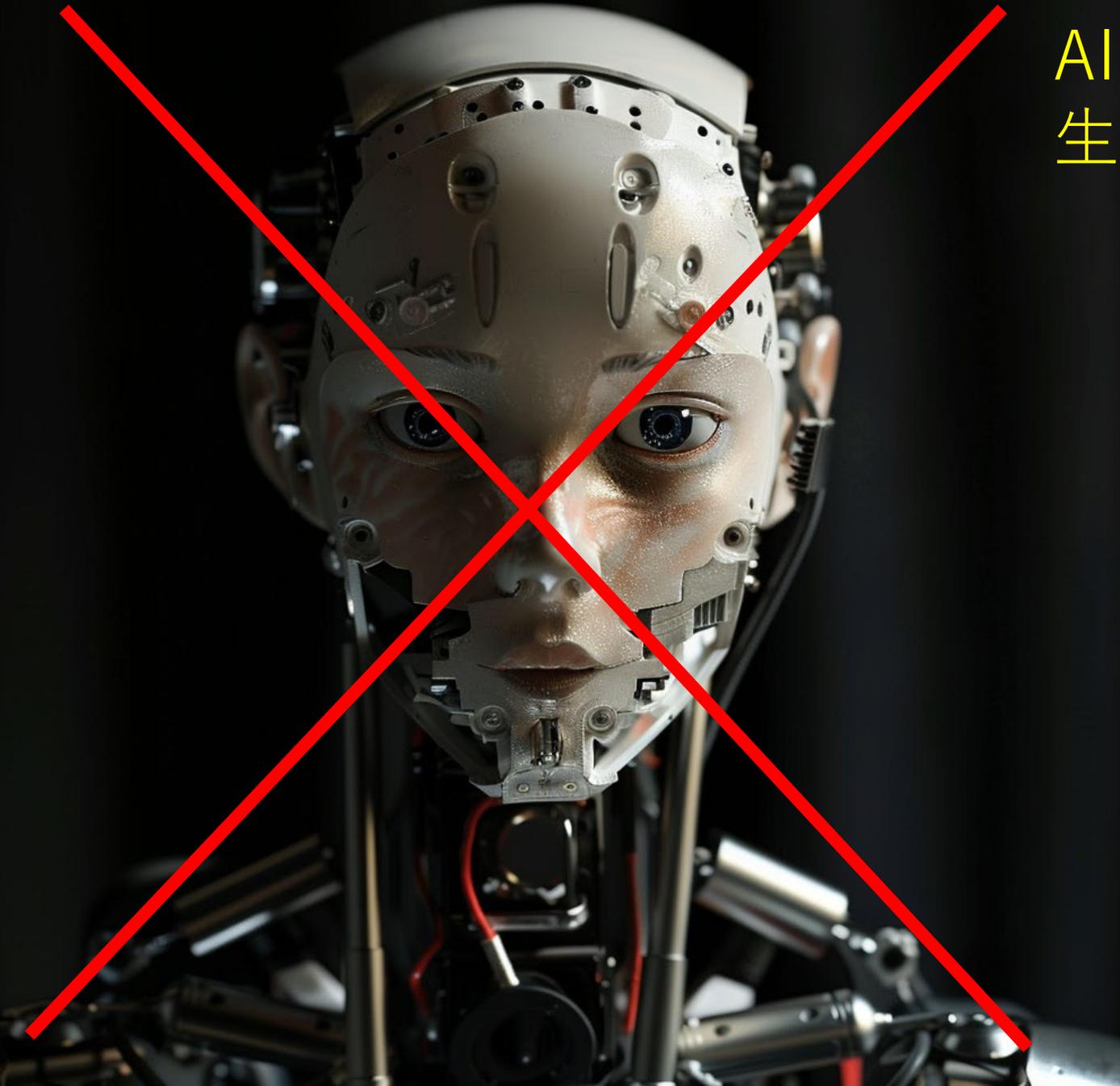
『JACET中部支部紀要』 21, 1-16.

https://doi.org/10.34545/jacetchubu.21.0_1

1.2 1年目の認識



AIの擬人化を避け、参考意見を生成する装置としてAIを認識



2

ChatGPT活用2年目： AIの言語生成と 人間の言語使用の区別

2.1 実践：文体改訂を3種類に、「ジェパディ！」
型語彙テスト、ソクラテス的問答

2.2 考察：AI測定への懸念、ハイデガー的解釈、
言語使用のリスクと責任

2.1 2年目の実践

- 実践は基本的に、**学生のニーズに応えるための部分的改善にとどまる**
 1. **文体改訂レベルを3種類に増やす**
 - 大学生レベルと研究者レベルに**高校生レベル**を追加
 - <https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/11/ver4chatgpt-3.html>
 2. **「ジェパディ！」型語彙テスト**
 - 語彙テストを**音声モード**で実施。AIで作成した音声で、目標語を言わないままその語について英語で**50秒程度**解説。学生はその語が何であるかを当てる。
 - <https://yanase-yosuke.blogspot.com/2024/07/chatgpt.html>
 3. **ソクラテス的問答**
 - ChatGPTとの音声英語会話がすぐに終わりがちな状況を改善するため、ChatGPTに**知的探求を促す**発話をさせる。
 - <https://yanase-yosuke.blogspot.com/2024/04/socratic-tutor-chatgpt-35.html>

2.2 2年めの考察：人間の言語使用とAIの言語生成の違いについて考え続ける

- 「AI測定」が神格化されることを警戒。
- 「私たちは大切なことを測定しているのか、それとも測定できることを大切にしているのか」
 - <https://yanase-yosuke.blogspot.com/2024/08/2024.html>
 - <https://yanase-yosuke.blogspot.com/2024/08/2021-gert-biesta-2013-beautiful-risk-of.html>
- 論文
 - <https://waseda.repo.nii.ac.jp/records/2000817>
- 学会講演予行演習録画とスライド
 - <https://yanase-yosuke.blogspot.com/2023/08/let62ai.html>

特集：人工知能時代の日本語教育—テクノロジーとの共生を目指して—

「英語力」をこれ以上商品化・貨幣化するためにAIを使ってはならない
—技術主導の問いから人間主導の問いへ—

柳瀬 陽介

要旨

新技術が台頭する時、人々は熱狂的に「技術に何ができるか」と技術主導の問いを尋ねる。しかしより重要なのは、「人間は技術に何をさせるか、あるいはさせるべきでないか」という人間主導の問いである。本稿は「近代社会の歪みをこれ以上悪化させるためにAIを使ってはならない」という原則の下に、資本主義・新自由主義的な英語教育の管理をAIで加速させることを防ぐべきと主張する。具体的には、AIを使って、これ以上「英語力」を商品さらには貨幣として扱い、学習者と教師を疎外することをやめなければならない、と説く。多くの英語教育関係者は、本来はさまざまな要因から創発している英語使用を、「あるに違いない」と想定する観念である「英語力」から生じるものと信じ込んでいる。さらにはその「英語力」を大規模標準テストで実体化したと思込み、そのスコアを英語力の証左と見なす。そのスコアはやがて貨幣のように英語教育の価値を示すものとされる。AIを使ってこの近代の信仰システムを増長させてはならない。

キーワード

AI (Artificial Intelligence) 英語力 資本主義的生産様式 商品 貨幣



全国英語教育学会第49回福岡研究大会
シンポジウム日本の英語教育の将来：
AIの衝撃－英語教室はどう変わるのか？
2024年8月25日（日）14:20-16:00

英語教育は学習者をAIの
ようにしてはいけない
—AIの言語生成と
人間の言語使用の違い—

柳瀬陽介（京都大学・国際高等教育院）
<https://yanase-yosuke.blogspot.com/>
<https://x.com/yosukeyanase>

1

- ハイデガーの『存在と時間』の用語を換骨奪胎的に翻訳しての考察
- AIは<平均人>が好む<よくある話>を生成することにおいて人間をはるかに凌駕している。
- しかし、AIはある人が<実存>するための<語り>を代行できない。
- 学会講演予行演習録画とスライド
 - <https://yanase-yosuke.blogspot.com/2024/08/aiai.html>
- 講演を原稿化した文章は、2025年春に公刊予定
 - 李在鎬・青山玲二郎（編）『AIとことばの教育：理論と実践の視点から語る』くろしお出版、所収

- AIは自らの言語生成に対して、人間のようにはリスクと責任を取らない。
- 人間の言語獲得は、自らの言語使用についてのリスクと責任を取るときに、もっとも促進される。
 - M. ポラニー、H. アレント、N. タレブなどの論考をもとに考察
- 学習者がいくらAIから支援を受けても、学習者がことばにリスクと責任を取らなければ、現実世界での言語使用につながらないのではないか。
- 研究会講演予行演習録画とスライド
 - <https://yanase-yosuke.blogspot.com/2024/09/blog-post.html>



3

今後のAI活用型英語ライティング教育： 人間重視と学習の高次化

3.1 「書かれた文章よりも文章を書く人間の方が重要」

3.2 AIによる英語ライティング学習の高次化



You reposted
David Perell
@david_perell

I asked Sam Altman: “Will AI kill writing?”

He said: “I don’t see any evidence whatsoever that AI seems to be killing writing.”

Let’s say we have a system that can write better than a human. Do you think the most popular novel of 2027 has a human name on it or not?

When I finish a great book, the first thing I go do is I want to know more about the writer. I want to know their life story. And I don’t think I’ll ever have that feeling about AI writing.

There’s something about reading an incredible book and connecting to a person. Even though you don’t literally know them, you feel like you do and you feel like you have this important shared human experience, and that’s a significant percentage of the enjoyment of a great book to me.

I bet we’ll keep doing that.”

@sama



8:43 AM · Sep 25, 2024 · 252.6K Views

83

175

1K

519



3.1 「書かれた文章よりも文章を書いた人間の方が重要」

サム・アルトマン

「いい本を読んだときにはその著者について知りたくなる。どんな人生を送った人なのか知りたくなる。だがAIが書いた本についてそんな感情を抱くことはないだろう。」

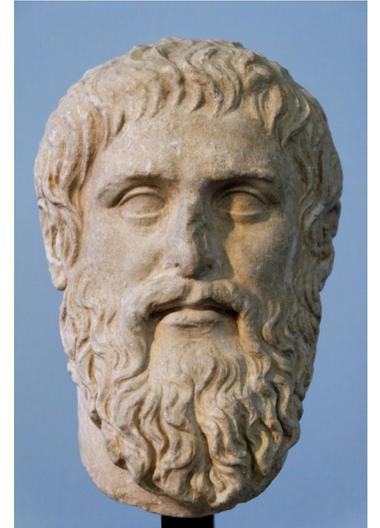
Sam Altman

“When I finish a great book, the first thing I go do is I want to know more about the writer. I want to know their life story. And I don’t think I’ll ever have that feeling about AI writing.”

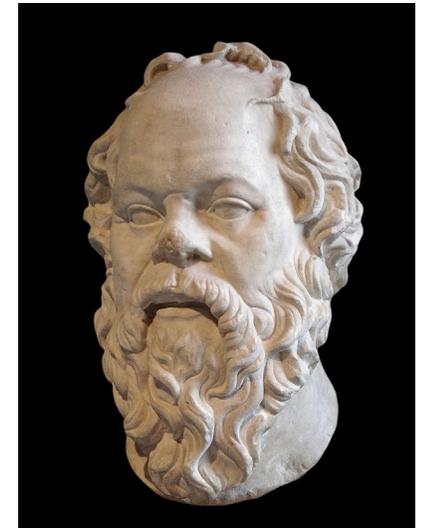
当時の革命的メディアであった文字に対する ソクラテスの見解：文字は著者のことばの影

- 書かれた文字は、著者と異なり、
- 語るべき相手を見極めることができない。
- 補足説明することも誤解を解くこともできない。
- 著者のことばの「影」にすぎない。
- 知識をもった者が正しく論証することばは、文字と異なり、聞き手に種を蒔く。
- 種は聞き手の中で実を結び、聞き手はその実の種をさらに他の聞き手に伝える。
- かくして知識は発展し続ける永遠の命をもつ。

プラトン (1967) 『パイドロス』 (藤沢令夫訳) 岩波書店
Plato (2005). *Phaedrus*. (C. Rowe, Trans) Penguin Books.



CC-BY 2.5

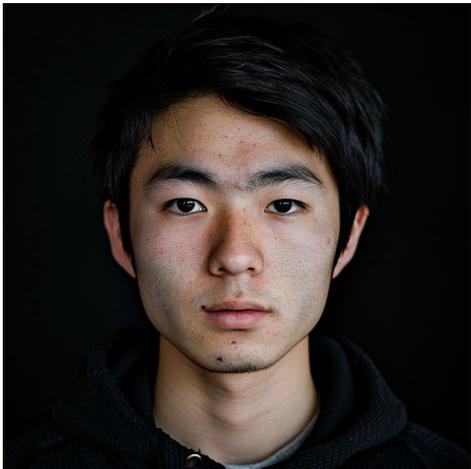


CC BY-SA 2.5

AIを英文完成のためでなく、英語を使い こなす人間の育成のために使う

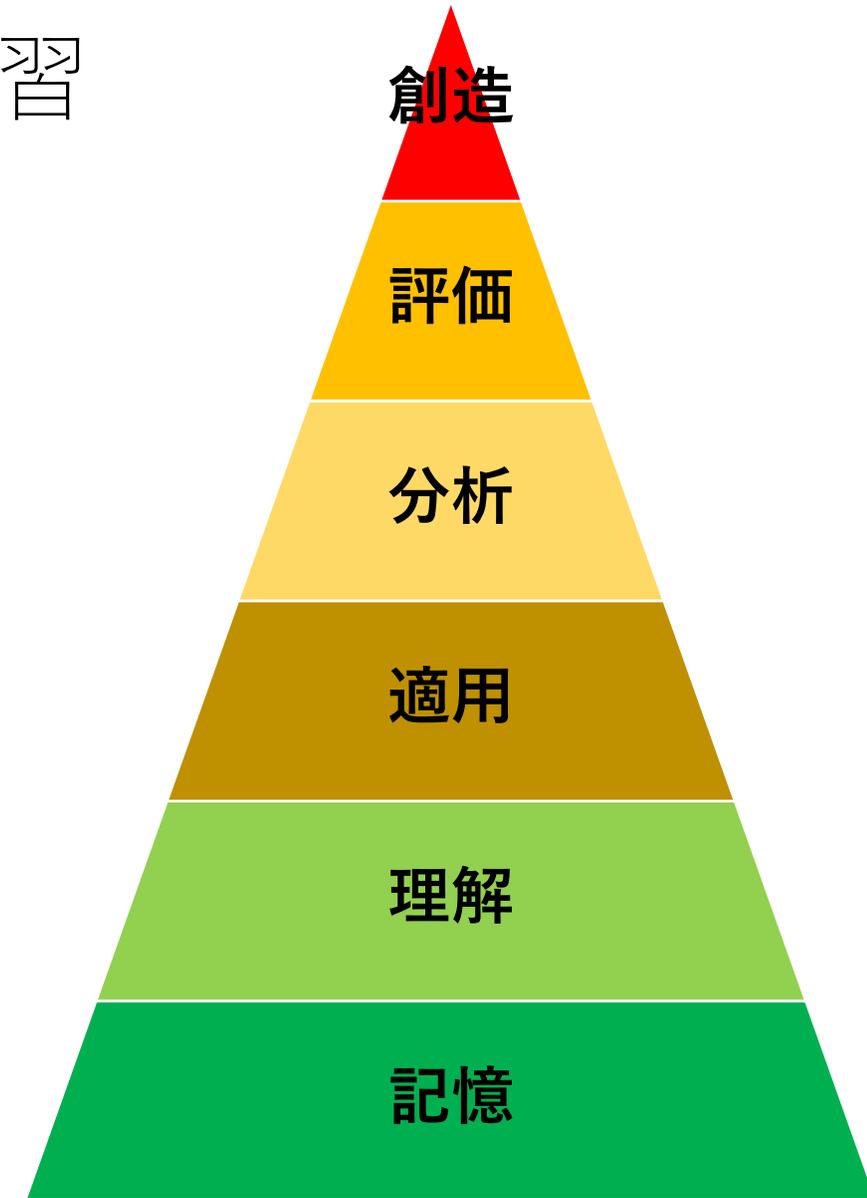


- 発表者は英語ライティング授業で、AIを英文の添削・改訂のための「参考意見生成装置」として利用している。
- しかし、英文完成が英語ライティング教育の終点であるべきではないだろう。
- 学生が、自らの英文で表現し伝達したかった知識について補足説明し、読み手と対話し、共に知識を育てることが、学術英語教育の目的だろう。
- 英語ライティング教育は、英文の完成ではなく、英語を使って他者と共に知識を発展させる人間を育てることを目指すべき。



3.2 AIによる英語ライティング学習の高次化

- ライティング教師は、**語法添削**と**文体改訂**の大半をAIに委ねることにより、**添削・改訂**についての**高次の指導**や**ストーリー**の指導ができる。
- **AIは英語ライティング学習を高次化する。**
- **さらなる仮説1**：AIは**語学科目**と**専門科目**の間の境界をあやふやにする。
- **仮説2**：AIは**英語ライティング指導**と**日本語ライティング指導**の境界もあやふやにする。
 - 柳瀬陽介 (2023) 「AIを活用して英語論文を作成する日本語話者にとっての課題とその対策」 『情報の科学と技術』 73, 6, 219-224.
https://doi.org/10.18919/jkg.73.6_219
- **前提**：AIによって教師が自らの指導力を向上させるならば。



本日のまとめ

1年目: AIの擬人化を避け、AIを人間の能力を補足し拡張する装置とみなすようになった。

2年目: AIの言語生成と人間の言語使用の違いを重視するようになった。

これから: 英語ライティング教育を知識を愛する人間の育成と考えたい。

ご清聴に感謝